



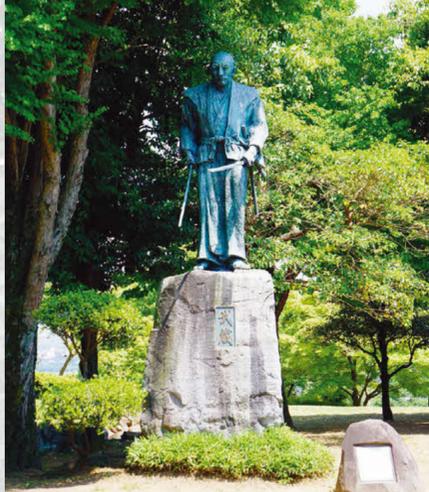
## 人気漫画『ONE PIECE』のルフィ像が熊本市に



©尾田 栄一郎/集英社

平成28年(2016年)4月に発生した熊本地震では、熊本城をはじめ熊本市も大きな被害を受けました。その直後、熊本県出身の漫画家で、世界中で愛されている漫画『ONE PIECE』の作者・尾田栄一郎氏は、「必ず助けに行く!」というメッセージを熊本に送りました。それをきっかけに『ONE PIECE』熊本復興プロジェクトが立ち上がり、平成30年(2018年)、熊本県庁プロムナードに、主人公ルフィの像が設置されました。その他、現在は、熊本県内9カ所に“麦わらの一味の銅像”があり、国内外から多くのファンが足を運んでいます。

ONE PIECE熊本復興プロジェクトのWebサイトはこちら!



武蔵塚公園内「宮本武蔵像」

## 剣豪・宮本武蔵が晩年を過ごした熊本の足跡

戦国時代末期から江戸時代初期(16世紀末から17世紀初期頃)にかけて活躍し、剣豪としてはもちろん、兵法家や芸術家としても才能を発揮した宮本武蔵。晩年、肥後藩主・細川忠利の客分として熊本に招かれ、兵法の極意を記した「五輪書(ごりんしょ)」を完成させ、62歳でその生涯を閉じました。



### 二天一流と居合道体験

「二天一流」は、武蔵が晩年に完成させた兵法で、その理念は「五輪書」にも記されています。熊本市には、現在もその二天一流の教えを受け継ぐ18代宗家・松永哲典(まつながあきのり)さんが武蔵館道場を開いています。ここでは、居合道の体験を通して武士道の心を学ぶことができます。英語での指導も対応しているので、ぜひ、熊本で“サムライ”の精神に触れる体験をしてください。

### 霊巖洞・五百羅漢(雲巖禅寺)



霊巖洞は、熊本市の西に位置する金峰山(きんぼうざん)山麓にある洞窟です。神秘的な霊場として知られる雲巖禅寺(うんがんぜんじ)の裏山にあり、晩年の5年間を熊本で過ごした宮本武蔵は、この洞窟にこもって兵法書「五輪書」を著しました。雲巖禅寺から霊巖洞に至る岩山を削った細道には五百羅漢が安置されていて、約200年前、熊本の商人・測田屋儀平(ふちだやきへい)が、24年の歳月をかけて奉納したと言われています。

### 阿蘇



世界最大級のカルデラが広がる阿蘇は、熊本県を代表する観光地です。平成25年(2013年)に世界農業遺産、平成26年(2014年)には世界ジオパークの認定を受け、伝統的な農耕文化や希少な動植物、そして広大な草原などの素晴らしい景観が現代まで受け継がれています。活火山として今も活発に活動続ける中岳火口の見学や、阿蘇カルデラを一望できる「大観峰(だいかんぼう)」からの絶景など、他では味わえない体験が待っています。

### 天草



大小120あまりの島々からなる天草。周囲を海に囲まれていて、熊本市内からは「天草五橋」と呼ばれる五つの橋を渡って渡ります。一年中見ることができるイルカウォッチングなどのマリナレジャーに加え、肉食恐竜の化石が発見された御所浦島、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つとして世界文化遺産に認定された崎津集落など、自然と文化に触れる旅が楽しめます。もちろん、近海で獲れる豊富な海の幸も絶品です。



## 水と緑豊かな城下町

熊本市は、日本の九州地方の中央に位置する人口174万人の都市です。豊富な地下水により育まれる良質な農水産物や、別名「森の都」と称される緑溢れる環境など、恵まれた自然に由来する文化があります。また、かつて熊本を治めていた藩主の加藤家や細川家に由来する大名文化や能楽、熊本城など地域固有の文化や文化財があり、今も地域住民によって継承され、郷土への愛着や誇りを育むことにつながっています。

加えて、本市は医療環境や治安が良く、高等教育機関、商業施設が高度に集積するなど都市機能も充実しており、豊かな自然と歴史文化、そして都市機能の調和がとれた都市となっています。また、近年は、熊本への台湾大手半導体関連企業の進出に伴い、地域経済が急速に発展しています。在住外国人数が過去最高を更新するなど、地域全体の多様性が高まる中で、多文化共生社会を推進するトップランナーとしての役割が期待されています。



熊本市の観光情報はこちら!



### 地震の被害から復旧が進む“熊本市のシンボル”

熊本市のシンボルとして市民に愛されている熊本城は、慶長12年(1607年)に、当時、熊本(肥後)を治めていた武将・加藤清正が完成させました。約980,000m<sup>2</sup>の広大な城郭の中に、天守、櫓49、櫓門18、城門29があり、その雄大さや美しい曲線を描く石垣をはじめとする築城技術の高さから、「日本三名城」の一つに数えられます。平成28年(2016年)に発生した熊本地震によって、天守閣をはじめ多くの建造物や石垣が被害を受けました。しかし、令和3年(2021年)春に天守閣の修復が完成するなど、着々と復旧が進んでいて、2052年ごろに完全復旧する予定です。

# 熊本市とエクサンプロヴァンス市とのつながり

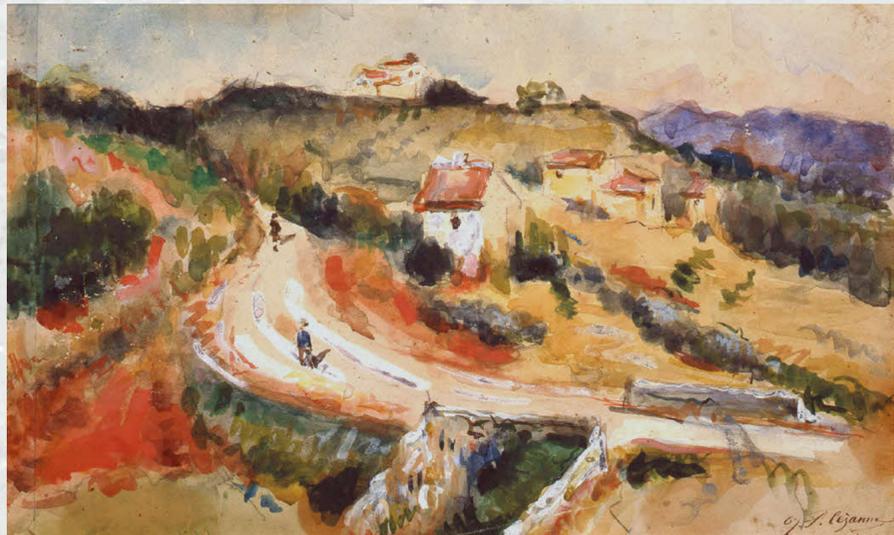
## 交流の始まりは1980年代の民間交流から

1980年代から民間団体により、エクサンプロヴァンス市との交流が開始され、特に平成4年(1992年)、熊本市在住の能楽師・狩野秀鶴(かの しゅうほう)氏が、エクサンプロヴァンス市に総繪造りの能舞台を寄贈したのを契機として、両市の民間・行政双方での交流が始まりました。そして、20年以上の交流を経た平成25年(2013年)2月16日に、「交流都市」協定を締結しました。エクサンプロヴァンス市内のサンミトル公園には、今も狩野氏が寄贈した能舞台があり、さらに、熊本市の庭園技術者が整備した日本庭園もあります。今後は、文化・芸術分野の交流に加え、観光、経済、教育などの分野でのさらなる交流の深化が期待されます。



## 細川護立コレクション

## エクサンプロヴァンス市の画家・セザンヌの水彩画が「永青文庫」に所蔵



ポール・セザンヌ「登り道」1867年 永青文庫所蔵 ※常設展示はしていません

熊本の藩主であった細川家の16代当主・細川護立(ほそかわ もりたつ/1883~1970)は、書画や刀剣をはじめ西洋・東洋の美術に関する造詣が深く、美術品収集家としても有名で、そのコレクションや細川家伝来の歴史資料などを保存・展示・研究するための「永青文庫(えいせいぶんこ)」を東京に設立しました。護立が、自身のコレクションの中でもとりわけ大事にしていたのが、エクサンプロヴァンス市出身の画家で、

“近代絵画の父”と称されるポール・セザンヌの「登り道」です。彼が大正15年(1926年)~昭和2年(1927年)にかけてヨーロッパを訪れた際、拠点としていたパリで購入しました。護立は「登り道」を「驚くべき若き時代の作なるに似ず真に大セザンヌとして驚異に値する傑作中の傑作と思われる」と絶賛し、後年、収集した西洋絵画の多くを手放した中でも、この作品だけは手元に残すほどでした。



# 春

## 熊本有数の桜の名所・熊本城

熊本市のシンボル「熊本城」は、県内でも有数の桜の名所としても知られています。3月下旬~4月初旬にかけて、城内にある約560本の桜が咲き誇り、多くの花見客や観光客が訪れます。

# 四季のうつろい 熊本市の



# 夏

## 湧水と緑あふれる都会のオアシス・江津湖

熊本市は「水の都」とも言われ、74万市民が日々使用する水道水は100%地下水で賄われています。その豊かな水資源の象徴の一つが「江津湖」です。市の中心部にほど近い場所にありながら、1日約40万トンの湧水量を誇り、貴重な植物や野鳥も見られる市民の憩いの場です。



# 秋

## 美しい紅葉とイチョウに感嘆・旧細川刑部(ぎょうぶ)邸

細川家三代・忠利(ただとし)公の弟・興孝(おきたか)が築いた細川刑部家の邸宅。全国有数の上級武家屋敷としての格式を誇り、毎年秋(11月中旬~12月初旬)には期間限定で庭園が公開されます。夜間はライトアップされ、色づいた紅葉やイチョウが幻想的に浮かび上がります。



# 冬

## 雪化粧した熊本城は稀な絶景

温暖な気候の熊本市では、冬でも雪が積もることはめったにありません。しかし、稀に積雪することがあり、うっすらと雪に覆われた熊本城は、厳かな空気に包まれます。また、熊本市中心部から車で北へ約1時間のところには、川の兩岸に10軒の旅館と温泉施設が立ち並ぶ小さな温泉街・植木温泉があり、冬の空気で冷えた体を温めてくれます。

# 現代の熊本にも息づいている細川家が残した文化

細川家は、加藤家の改易後に熊本藩主となり、200年以上にわたって江戸時代(1603~1867年)の熊本を治めました。江戸時代に育まれた細川文化は、長い年月を超えて大切に受け継がれ、現代の熊本に息づいています。



水前寺成趣園

## 水前寺成趣園

寛永9年(1632年)に肥後細川初代藩主・細川忠利公が御茶屋を置いたのが始まりで、その後、三代目藩主・綱利(つなとし)公のときに庭園が完成し、「成趣園(じょうじゅえん)」と名づけられました。阿蘇の伏流水が湧き出る池を中心に、富士山をかたどった築山や浮石などが配置された回遊庭園になっています。



出水神社

園内には、大正元年(1912年)に京都御所内から移築された「古今伝授の間(きんくんでんじゅのま)」があり、この建物は、慶長5年(1600年)に細川藤孝(ほそかわふじたか)公=別名・幽斎(ゆうさい)が、智仁親王(としひとしんのう)に古今和歌集の奥義を伝授した場所といわれています。また、園の北側には細川家の歴代をまつた出水神社(いずみじんじや)もあります。



## 立田自然公園

立田山の麓にある、熊本藩主・細川家の菩提寺・泰勝寺(たいしょうじ)跡です。細川家初代・藤孝夫妻と二代目・忠興(ただおき)とガラシャ夫人の墓「四つ御廟(ごびょう)」や、武人でありながら茶道の腕前も随一といわれた細川忠興の原因に基づいて復元された茶室「仰松軒」などがあります。また、細川忠利から客分として招かれた剣豪・宮本武蔵(みやもとむさし)の墓もあるといわれています。



## 肥後象がん

肥後象がんは約400年前に藩主に仕えていた鉄砲師が銃身や刀の鐳(つば)に象がんを施したことが始まりといわれます。鉄地に金、銀をはめ込み、さまざまな模様を描きだすのが特徴です。現在では「布目象眼(ぬのめぞうがん)」の技法でペンダントやネクタイピンなど装飾品を中心に製作され、盛り上がりのある重量感と鉄地の美しさで人気です。国の伝統的工芸品に指定され、熊本市の代表的な伝統工芸品となっています。